

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型拠点ラボリベース（児童発達支援センター）		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 10日		～ 2026年 3月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	64	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	2026年 3月 10日		～ 2026年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	関係機関とのつながりを活かした支援体制が整っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、保育、教育機関等と連携し、お子様の状況に応じた支援を行っている</li> <li>・担当者会議や訪問、情報共有等を通して、関係機関との連携を図っている</li> <li>・地域の事業所との交流や研修等を通して、支援の質の向上につなげている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との情報共有の頻度や方法を整理し、よりタイムリーな連携体制を構築する</li> <li>・地域全体での支援の質の向上に向けた取組への参画を継続していく</li> </ul>
2	保護者様との信頼関係が構築されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HUGや送迎時のやり取りを通して、お子様の様子を丁寧に共有している</li> <li>・定期的な面談や保護者会、ペアレントトレーニング等を実施している</li> <li>・保護者様のご意向を踏まえた支援計画の作成を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様にとってより分かりやすい情報発信や説明方法の工夫</li> <li>・相談しやすい環境づくりのさらなる充実</li> <li>・きょうだい支援や保護者様同士の交流機会の拡充</li> </ul>
3	お子様一人ひとりに応じた支援と職員間の連携体制が整っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会議や日報を通して、お子様の状況を共有している</li> <li>・個別支援と集団活動を組み合わせた支援を行っている</li> <li>・職員同士が声をかけ合い、柔軟に支援体制を調整している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録やモニタリングを活用し、支援の質のさらなる向上を図る</li> <li>・勤務時間の違いに対応した情報共有の仕組みを強化する</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有や振り返りの機会に差が生じることがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数やお子様の過ごし方によって、必要な空間の使い分けが難しい場面がある</li> <li>・食事、午睡、個別対応など、同時に複数の支援場面が生じることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様の人数や活動内容に応じた空間の使い分けをさらに工夫する</li> <li>・個別に落ち着いて過ごせる場所の確保や環境調整を進めていく</li> </ul>
2	職員間の情報共有や振り返りの機会に差が生じることがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間帯の違いにより、全職員が同じ時間に打合せや振り返りに参加することが難しい</li> <li>・支援の前後で十分な口頭共有の時間を確保しにくい場面がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日報やHUG等を活用し、勤務時間帯が異なる職員にも伝わりやすい共有方法を整える</li> <li>・短時間でも必要な確認や振り返りができる仕組みを工夫していく</li> <li>・口頭共有と記録共有の両方を活用し、共通理解を深めていく</li> </ul>
3	地域との交流機会や取組の周知にばらつきがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様の利用時間帯やクラスによって、地域との関わりの機会に差が生じやすい</li> <li>・事業所として実施している取組が、保護者様に十分伝わっていない場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域施設や地域行事の活用を含め、お子様が地域の中で関わる機会を計画的に設けていく</li> <li>・保護者様への周知方法を工夫し、事業所の取組や意図がより伝わりやすい形にしていく</li> </ul>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型拠点ラボリベース 児童発達支援センター

公表日 令和8年3月31日

アンケート期間：令和8年3月10日～令和8年3月20日

保護者等数 64名

回収数 38件

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	35	3			たまに外遊びや公園や散歩など祝日に外に出る機会が欲しいです。 実際の活動状況をあまり見たことがないので、どちらとも言えない	外遊びや散歩等の機会については、活動内容や安全面を踏まえながら、実施できる場面を検討してまいります。また、日々の活動の様子が保護者様により伝わるよう、記録やおたより等での発信を工夫してまいります。療育参観など実際に活動を見ていただく機会を今後もつくってまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	29	4	1	4	Q1同様	お子様の安全と活動の充実の両立が図れるよう、引き続き適切な職員配置に努めてまいります。また、日々の支援体制についても分かりやすくお伝えできるよう工夫してまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	33	1	1	3		お子様が安心して過ごせる環境となるよう、構造化や視覚的な分かりやすさ、設備面の配慮について今後も点検と見直しを継続してまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	36	2				清潔で心地よく過ごせる環境づくりを継続するとともに、お子様の活動内容や年齢、発達段階に応じた空間設定を引き続き工夫してまいります。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33	2	1	2	医療的ケアが必要な場合、看護師や栄養士と面談を重ねたい。別の施設に通っていた時は、母子登園であった為、その場で子どもの状況をお伝えできたが、ラボリさんは母子分離の為、活動中に起きている異変に対応できているか不安はある。たまに、声掛けに配慮が足りないと感じることがある	医療的ケアや食事面等については、必要に応じて看護師・栄養士を含めた情報共有や相談の機会を設け、安心してご利用いただけるよう努めてまいります。また、職員の声かけや関わり方についても振り返りを行い、お子様や保護者様により配慮のある支援につなげてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	37		1			公表している支援プログラムと実際の支援内容にずれが生じないよう、内容の確認と見直しを継続し、分かりやすいご説明に努めてまいります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	37	1				保護者様のお考えやご希望を丁寧に伺いながら、お子様の状況を多面的に把握し、より納得感のある個別支援計画の作成に努めてまいります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	37	1				今後もガイドラインを踏まえつつ、お子様やご家庭の状況に応じた具体的に分かりやすい支援内容の設定に努めてまいります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	37	1				個別支援計画に基づいた支援を継続するとともに、実際の支援内容についても保護者様により伝わりやすい共有を心がけてまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	35	1	1	1		お子様の興味や発達段階、季節や行事等も踏まえながら、活動内容が偏らないよう今後も工夫を重ねてまいります。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	16	3	6	13	広報誌やハグでの連絡では他の園や地域活動は記載されていない。	地域との関わりや交流の機会について、実施している内容が保護者様に伝わるよう、広報誌やHUG等での発信内容を見直してまいります。また、今後も地域とのつながりを意識した取組を検討してまいります。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	37	1				今後も制度や利用方法、費用に関する説明を丁寧に言い、不明点が残らないよう分かりやすいご案内に努めてまいります。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	36	2				今後も計画を用いながら、支援の目的や内容がより具体的に伝わる説明を心がけてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	36	1		2		家族支援プログラムや情報提供の機会について、実施内容や周知方法を見直し、必要なご家庭に届きやすい形を工夫してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	36	1	1			今後も日々の様子や成長、課題について丁寧に共有し、保護者様との共通理解をより深められるよう努めてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	33	3	1	1		面談や助言の機会について、必要性に応じてより分かりやすくご案内し、相談しやすい体制づくりを進めてまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	35	2	1			職員一人ひとりの関わり方や声かけを改めて見直し、保護者様やお子様のお気持ちに十分配慮した共感的な支援につなげてまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	2	1	8	保護者会やつばやきカフェに参加したかったものの、予定がなかなか合わず参加出来ませんでした。保護者会の資料を頂けて有り難かったです。	保護者会やつばやきカフェ等について、参加しやすい日程や周知方法を工夫してまいります。また、当日参加が難しい方にも内容が伝わるよう、資料共有等の方法を継続して行います。きょうだい向けイベントの開催を考えてまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	33	3	1	1		相談しやすい体制について改めて周知するとともに、ご相談やご要望に対して迅速かつ丁寧に対応できるよう努めてまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	36	1	1			ご家庭の状況や分かりやすさに配慮した伝え方を意識し、円滑な情報共有に引き続き努めてまいります。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	37	1			今後も必要な情報が保護者に分かりやすく届くよう、通信やHUG等での発信内容と方法を継続して工夫してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35	2		1	今後も個人情報の取扱いについて職員間で確認を徹底し、安心してご利用いただけるよう努めてまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	34	1		3	感染症対策として、毎日の施設の対策を知りたい。 感染症対策について保護者に安心していただけるよう、日々の取組が分かりやすく伝わるようにしてまいります。毎日のおもちゃの消毒、清掃、テーブル・椅子の消毒、食後の床の消毒、ドアノブや手すりの消毒を継続するとともに、定期的な換気や手洗い・手指消毒、体調確認も引き続き行ってまいります。また、月1回以上の次亜塩素酸による床消毒や、毎日の検温等も継続し、必要に応じて保護者様へ感染症対策の内容をより分かりやすくお伝えしてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	34	1		3	非常時に備えた訓練を継続して実施するとともに、実施状況についても保護者様にお伝えできるよう努めてまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34	1		3	安全確保に関する計画や日々の取組について、保護者様にもより分かりやすくご理解いただけるよう周知に努めてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	34	1		3	事故等が発生した際には、今後も速やかなご連絡とご説明を行うとともに、再発防止の取組についても誠実にお伝えしてまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	36	2			職員の皆様、子供をすごく丁寧に見ていただいていると思います。 今後もお子様一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、安心して通所できる環境づくりを継続してまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	35	2		1	娘達はラボリさんが大好きです いつもありがとうございます 保育園の日も『ラボリ！』『ラボリいくの！』というぐらいうラボリが大好きです。 通所日の朝、子どもに「ラボリ行くよ～」と伝えると、ニコニコ笑顔で嬉しそうにしています。 泣かずに通えるようになりました。 活動や、友達による
	29	事業所の支援に満足していますか。	36	1	1		とても満足しています 大変なことも多いですがこれからも頼りにしています 温かいお言葉を励みに、今後も保護者様に安心して お子様をお預けいただけるよう、支援の質の向上に 努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型拠点ラボリベース 児童発達支援センター					
		公表日 令和8年3月31日					
		チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が急にお休みになった場合には他部署の看護師の応援体制が整いつつあります。</li> <li>・以前は、利用人数が多く危険を感じることもあったが、今は感じない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数が多い日はスペースが狭いと感じます。</li> <li>・午前中から利用する児童が多いと食事の特に介助をしながらなので、スペースを取らざるを得なく、少しお部屋が狭く感じる。</li> <li>・日により人数が多くなると、又、お昼寝しない子どもが多いとうみのスペースは狭くなってしまふ。</li> <li>・午睡時は、午睡が必要な児童が少ない場合は起きている子どもの人数に合った広い部屋を使用できるようにしたほうが良い。</li> </ul>
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「うみ組」、「そら組」と2クラスあるので、互いの職員が声をかけ合い、足りないような時は対応している。</li> <li>・その日の利用人数、職員数に応じてすぐに変更し、対応している。職員同士声をかけあっている。</li> <li>・急な対応で職員が抜けなくてはいけない時でも（ケガや病気対応で看護師が抜けるなど）声をかけあって、違うクラスや事務所から代わりの職員が入ってくれたりと補いつけている。</li> <li>・職員間で声をかけあい、現場の職員配置が足りない状態の時はデスク仕事を後にしてもらっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所が1階、支援室は2階なので、急に人手が足りない時の連絡がうまくいかない時もあるので、内線電話やトランシーバー等があると便利であると思う。（工夫している間に合わない事もあるので）</li> <li>・子どもの状況や人数によって職員の人手不足を感じることもあります。</li> <li>・職員の休みが重なってしまったり、曜日により職員が少なかったりすることがある。時間帯でも少なくなってしまう時もあるが、デスク仕事のやりくりが勤務時間内で終われる様にできたら良い。</li> <li>・昼休みの時間を使っている業務がある。（写真のHUG挿入、製作準備など）</li> </ul>
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所には、窓には柵、階段・トイレには手すりを設けている。</li> <li>・どこに何が置かれているか分かりやすいように写真や名前を書いたり、場所を決めて目で見て分かるようにしている。</li> <li>・絵カード等を使って、活動などの流れが視覚的に理解しやすいように工夫されていると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造上、仕方ないのかもしれないが、階段があるので咄嗟の時に危険を感じます。</li> </ul>
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々おもちゃ、椅子、テーブル等の除菌に努め、本棚等の整理を始めとする空間の心地よさを大切にしている。</li> <li>・食事、午睡、個別など部屋数があり、活動に応じて使い分けられるようになっている。</li> <li>・毎日清潔にし、気温にも気をつけている。</li> <li>・常に換気扇をつけて夏は扇風機を利用している。</li> <li>・掃除や消毒は毎日しっかりと行っていると思います。流れが決まっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のびのびと動きやすい部屋もあり、食事の部屋とは分けることもできている。しかし、昼寝が必要な年次の子に対しては隣の部屋の光が漏れていたり雑音があったりと、午睡の環境は良くない。</li> <li>・トイレが夏は暑く、冬は寒くなるので、トイレトレーニング中は困ることがある。</li> </ul>
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの状況に応じて、部屋や空間を使い分けながら、落ち着いて過ごせる環境づくりを行っている。</li> <li>・必要時には周囲の刺激を減らし、安心して過ごせる場所を確保できるよう配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの状況に応じた個室もしくはスペースが必要と感じます。</li> <li>・パニック状態の子どもが落ち着けるような何も置かれていない安全な部屋が必要と考える。</li> </ul>
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	16			<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議や支援会議等でみんなで意見を出し合っている。その他にも気になるご利用者様のことを議題に挙げ、クラス間で話し合う場を設けてもらうこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間の違いにより、すべての職員が同じタイミングで振り返りに参加することが難しい場合があるため、共有方法の工夫が必要である。</li> <li>・今後も、非常勤職員を含めて意見を反映しやすい体制づくりを進めていく必要がある。</li> </ul>
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐ対応している。</li> <li>・毎年、保護者向け評価を実施している。また、保護者会などでアンケートをとり、意向の把握に努めている。</li> </ul>	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面談が実施されているため、個人的な意見の吸い上げがなされやすい。</li> <li>・日々の打ち合わせや業務中の情報共有を通して職員間で意見交換を行い、子どもへの関わり方や活動内容の改善に繋げている。</li> <li>・良いと思った意見をすぐに取り入れて改善し、より良くしている。</li> <li>・職員の意見を聞いたり、話し合う機会はクラス会議などで設けられています。また、職員の提案に上司が耳を傾けてくれています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換の機会はあるが、業務中は十分な話し合いの時間を確保しにくいこともあるため、継続的に工夫していく必要がある。</li> <li>・出された意見をより全体で共有しやすくするため、記録や周知方法の整理が必要である。</li> </ul>
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	16			<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて外部の視点や助言を取り入れながら、支援の質の向上に努めている。</li> </ul>
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修などで得た知識や支援方法を職員間で共有し、子どもの特性に応じた関わり方や支援方法の見直しに活かしている。</li> <li>・他の施設見学や研修案内をしてきている。業務時間内で参加することができ、参加しやすくしている。</li> <li>・研修の紹介をされ、本人の希望で受けさせてもらっている。また、研修報告の場も設けられていて情報が共有されている。</li> <li>・日程や内容を教えてもらい、参加できるようにしている。</li> <li>・研修を受けた職員だけでなく、伝達があるので全体で学べる。</li> <li>・研修を受けられる機会が多く、その内容の共有も他職員にしっかりされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、パート職員さんと一緒に伝達講習（研修報告会）を受けられることを期待します。</li> <li>・令和8年4月より水曜日の午前中に研修を行えるようになるため、パート職員さんにも報告会に参加してもらえると感じる。</li> </ul>

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	16			・支援プログラムを作成し、職員間で共有するとともに、保護者にも公表している。	・支援プログラムの内容について、より分かりやすい発信方法や周知方法を工夫していく必要がある。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	16			・支援会議や面談で子どもに対して話し合う機会があり、身近に関わる職員や保護者の意向が反映されていると思います。	・うちの支援会議にも今後5領域を取り入れたほうが良いと感じる。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16			・責任者の職員が具体的な内容を挙げてどんな様子か確認してくれることが多く、職員同士の認識のズレがなく、検討がしやすい。 ・クラスごとの支援会議を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16			・更新されるとすぐに全ての職員に伝えてくれている。 ・業務日報での共有をし、職員全員が見る様にしている。 ・日報で全職員がいつでも確認できるようになっている。 ・終礼で連絡、日報にはさみ、共有している。クラスごとにファイルがあり、いつでも見られるようになっている。 ・終礼や日報で共有されています。	・読む時間の確保ができない事が多く、すぐに読むことができない。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	2	1	・日常の様子を職員同士で確認している。 ・KIDS乳幼児発達スケールを使用しています。	・チェックリストを使用するともっと分かりやすくなり、共通理解しやすいのでは。 ・フォーマルアセスメントに職員がまだ馴染んでいないのでは。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16			・ガイドラインに基づき、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援」の視点を踏まえた支援内容の設定を行っている。	・職員間での理解のばらつきをなくすため、ガイドラインの理解を深める機会を増やしていく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15		1	・クラス担当職員全員で考え、改善している。 ・クラス別で行っている。 ・クラス会議で意見を出し合い、活動プログラムを決めている。	・活動内容の検討は行えているが、準備や振り返りの時間を十分に確保することが今後の課題である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15		1	・長期で似た内容にならない様にしている。 ・毎回、活動の内容を確認している。	・活動の幅をさらに広げるため、子どもの発達段階や興味関心に応じた新しい活動の取り入れを継続していく必要がある。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	16			・個別療育を取り入れている。 ・個別療育と集団活動を両方利用している子どもも多くいて専門的な支援を受けられている。	・子どもの状況によっては、個別と集団のバランス調整が難しい場面もあるため、今後も柔軟な支援の組み立てが必要である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15		1	・必要に応じて、メインの職員が他の職員に声かけしたり、動いたりしている。 ・職員によっては勤務時間の違いや業務内容の違い（送迎中心など）から毎日打合せはできないが、相談事等がある際には、その都度相談している。 ・9:00出勤の職員だけの朝礼は毎日行っている。 ・支援開始前の朝礼は勤務時間が違うため、難しいので、前日夜に終礼を行っている。	・勤務時間が異なるので、支援開始前の打合せが難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	2		・その日のうちに振り返りを行えない事があるが、日報連絡に記入されていて後日だが、情報は共有される。 ・4月から会議や準備ができる時間が週に1回つづられ、改善された。 ・終礼で情報を交換し合い、その場にいらない職員にも伝わる様日報に残している。 ・その時間帯にいる職員だけで終礼を行い、業務日報に共有している。	・日々支援は進んでいく為、情報が伝わっていない事もある。職員間のコミュニケーションの点からも口頭伝達ももう少しあっても良いと思っている。 ・振り返りの時間を取ることができていない。 ・業務に追われ、振り返りするタイミングはあまりとれていないと思う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16			・サービス提供記録を活用し、日々の子どもの様子や支援内容を把握するとともに支援の振り返りや改善に繋げている。 ・ご利用者様に必ずその日の内に活動の様子が記録されている。 ・サービス提供記録をつけている。 ・日々の記録を徹底して行っており、よりよい支援にできるようにしている。 ・HUGでの活動記録は写真付きで、丁寧に作成できていると思います。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15		1	・定期的にモニタリングを実施し、児童の状況変化に応じて支援計画の見直しを行っている。	・モニタリングの質をさらに高めるため、評価の視点をそろえ、日々の記録とのつながりをより明確にしていける必要がある。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16			・児発管の他、担当クラスの職員が参加している。	・会議への参加はできているが、参加内容を事業所内でより分かりやすく共有していく必要がある。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16			・医療では、定期的に検診で医師に在所していただき連携した支援を行っている。 ・園によっては、先生と情報共有する機会もある。 ・関係機関見学会で情報共有ができています。	・関係機関との連携は行えているが、よりタイムリーな情報共有や役割分担の明確化を図っていく必要がある。	

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16			・支援内容を共有し、必要に応じて園と対応や支援内容を合わせている。	・情報共有は行っているが、園や学校との連携の頻度や内容に差が出ることもあるため、継続的な調整が必要である。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	1	1	・支援学校へ情報共有シートを記入し、送っている。移行後も相談できるようにしている。	・移行支援は行っているが、就学先との共有方法や引き継ぎのタイミングをさらに工夫していく必要がある。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	15			1	・必要に応じて地域の関係機関との情報共有や連携を行っている。 ・毎年2月に開催される児童発達支援センター情報交換会へ参加している。 ・児童支援部会を開催し、坂戸市内の事業所が集まる機会となっている。事前にアンケートをとることで地域の課題やニーズを把握している。 ・地域の事業所向け研修会を実施している。	・関わり度によらずつきがあるので、多くの事業所と関わる機会をつくっていく必要がある。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	15			1	・外部研修への参加を勧めたり、研修内容を職員間で共有したりすることで、支援の質の向上につなげている。 ・必要に応じて専門機関から助言を受け、支援方法の見直しに活かしている。	・研修に参加して良いと言われていたが、勤務時間の兼ね合い等で非正規職員は動きにくい。職場内で非正規職員への会議のような研修があったらありがたいと思う。(15分くらいで良いので)
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15			1	・必要に応じて関係機関との連携を図り、情報共有を行っている。	・職員の地域の会議や協議会への参加機会を増やし、地域連携をさらに強化していく必要がある。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。						
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	9		1	・特別支援学校の文化祭に参加することがある。 ・公園や児童センターなどで接することがある。 ・他の法人が主催する人形劇を観に行った。	・うみ組や午後に来所する子どもはなかなか機会がない。 ・利用時間帯やクラスによって交流機会に差があるため、計画的に地域との関わりの機会を増やしていく必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16				・HUGで日々の活動の様子を伝えたり、その日の様子も変化があれば伝えている。 ・送迎時や児童記録、連絡帳等で伝え合っている。また、面談などで課題について話し合っている。 ・連絡帳、HUGでの情報共有を丁寧に行っている。送迎時に保護者とのコミュニケーションを大切にしている。 ・お迎えや送迎の際に、その日の様子や必要な報告ができています。	・日々の共有はできているが、短時間のやり取りでは十分に伝えきれない内容もあるため、必要に応じて面談等を活用していく必要がある。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16				・職員によるペアレントトレーニングを行い、心理の先生による学習会を2か月に1回行っている。 ・ペアレントトレーニングを担当者が実施しています。	・取組は行えているが、参加しやすい時間設定や周知方法を工夫し、より多くのご家族が参加しやすい形にしていける必要がある。
	保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16				・長く時間をとり、とても丁寧に説明していると感じます。
36		児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16				・面談や日常のやり取りを通して、保護者の意向や子どもの利益を踏まえた支援計画の作成を行っている。	・意向確認の機会をさらに充実させ、より丁寧な合意形成を図る必要がある。
37		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	16				・児童発達支援計画の内容を面談時や送迎時に説明し、保護者の理解と同意を得ている。	・保護者がより理解しやすい説明方法の工夫や、質問しやすい環境づくりが求められる。
38		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16				・定期的な面談や日々のやり取りを通して、保護者からの相談に対応している。	・相談しやすい環境づくりや、相談機会のさらなる充実が必要である。
39		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	2			・父母の会はないが、交流の場をつくり支援をしている。 ・保護者会他に保護者同士で関われる場を設けている。 また、行事も行っており、きょうだいも参加することもできる。 ・保護者会に加えて、保護者同士で自由に話せる機会も毎月設けている。	・交流の機会は設けているが、参加しやすさや継続性の面で、さらに工夫していく余地がある。 ・きょうだいも含めた交流機会については、今後も内容や実施方法を検討していく必要がある。
40		こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16				・相談・苦情窓口を設けています。	・相談体制は整えているが、相談しやすさの周知や、対応後の経過共有をより丁寧に行っていく必要がある。
41		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16				・毎月おたよりをつくっている。HUGも使用し、情報を伝えている。 ・HUGを活用し、情報を発信できていると思います。おたよりもよくできていると思います。	・情報発信は行えているが、発信内容や更新頻度について、保護者にとってさらに分かりやすく充実させていく必要がある。
42		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16				・個人名が記載された書類はシュレッダーにかけている。	・日常的に配慮しているが、引き続き全職員で意識を高く持ち、取り扱い方法の確認を継続していく必要がある。
43		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16				・保護者様やお子様の状況に応じて、手話や視覚的な方法を用いるなど、意思疎通や情報伝達が円滑に行えるよう配慮している。 ・簡単な手話やゆっくり話すなどの工夫をしている。	・個々に応じた配慮は行っているが、より多様な方法を取り入れながら、本人・保護者にとって分かりやすい伝達方法を充実させていく必要がある。

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	6	1	・地域の保育園、幼稚園からの相談受付、保育所等訪問支援などを行っている。	・コロナ前には相談会等を実施していたが、今は行っていない。心理検査は地域の方向けにも実施している。 ・地域住民との交流機会はないため、設けるのも事業所を知ってもらいたい機会だと思う。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16			・毎月避難訓練を実施し、感染症などについても看護師が研修を行ってくれています。	・感染症対策のシミュレーションをスタッフみんなができるようになると良い。 ・実際の場面を想定した訓練やシミュレーションの機会を増やしていく必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16			・定期的に行っている。	・午後の利用人数の多い時間帯にも行う必要があるのではないかと考えている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	16			・看護師が担当している。 ・健康医療シートを半年ごとに記入してもらい、内服薬やアレルギーの確認を行っている。	・予防接種状況の把握まではできていないのではないか。 ・服薬等、看護師だけが事前にわかっている。共有されていないこともある。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	16			・栄養士による禁食および食形態リストの作成がなされています。	・対応体制は整っているが、全職員が共通理解のもとで対応できるよう、継続的な確認と共有が必要である。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16			・安全計画を策定し、研修や訓練を通して安全管理体制の維持・向上に努めている。 ・日報にも安全計画がはさんである。	・全職員が同じ理解のもとで対応できるよう、継続的な研修や確認の機会が必要である。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16			・HUG上で公開している。 ・安全計画はHUGで公開しています。	・公開はできているが、保護者により伝わりやすい周知方法や説明の機会を工夫していく必要がある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	1		・支援を行っている各部屋にヒヤリハットの記入用紙を備えてあり、気づいた点をすぐに記入することができるようになってきている。 ・終礼で当日あったヒヤリハットを発表している。その場で対応策も考えている。	・当事者以外の職員は周知されないと用紙を見ずに情報が遅れてしまうことがある。口頭伝達や連絡用紙の活用で情報共有が近々に行われると良いのではないかとと思われる。 ・共有しているが、再発防止に向けた話し合いは毎回はできていない。 ・ヒヤリハットは記録できるようになっているが、あまり書かれていない。もっと活用したほうが良い。 ・事故報告だけでなく、ヒヤリハットの対応法についての話し合いの機会を設けていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16			・虐待防止に関する研修や周知を行い、適切な支援の提供に努めている。 ・全職員が虐待防止チェックリストを定期的に回答している。	・職員一人ひとりの理解をさらに深めるため、定期的な振り返りや研修の機会を継続していく必要がある。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	16			・対象のご利用者様はいらっしゃいません。 ・身体拘束適正化委員会を設置し、研修を定期的に行っている。	・現在対象となる児童はいませんが、必要時に適切に対応できるよう、職員間での理解共有と確認を継続していく必要がある。